

【発行所】
東京都練馬区
東大泉5-3-1
都立大泉高等
学校生徒会
新聞小委員会
電 (924)0318
〔発行責任者〕
2-1 伊藤なおみ

充実したHR合宿

今回のR&G合宿の目的は、グループ行動を中心とした体験学習にあった。そのため、三日間程の旅程の内、二日が班行動となっていた。二・三クラスずつ、三つに分かれて宿をとったのだが記者の泊まった「ホテルニューたちばな」はよかったとは言えない。部屋等はまあきれいなのだが、食事がとにかくひどい程度にしか出ないので壊血病にはならないかと失敗してしまった。予算やら人数やら条件があつたのは分かるが、これだけの量を出すのなら、代わりでせめて少量でもいいから、おいしいかき料理が食べられた。その土地へ行ってその土地のものを食べないのは旅のおもしろ味半減であるスケジュールはかなりハヤ

た。これは、今回のH R合宿では、「一つのテーマについて考える」というH R合宿の原点に基いた日程であったた
めと思われる。その反面、見

して多少の解い説を加えよう
(スペースの都合上、十一月
本の結果のみ掲載。)

希望者が多いこと（バイオオテクノロジー技術の人気の影響や、看護・薬学部、教員養成部を希望する女子が多いこと）も、その傾向の一つらしい。

【注】 未提出者、不正確な部
分有り。

アルバイトについて

スになることもたくさん身についた。例えば、「いつも笑顔を保つこと」がモットーで、内心パニックしている時も顔ではニコニコすること客修得した。いろいろなお客様が来ることで、忍耐力も少なくなっていた。ある友人などは、

いか。そして、全体的にみてみると、社会勉強になり視野が広がるというのも無視できない利点だろう。お金づかいのことも、個人で管理するべきことで、学校から干渉を受けるものではない。もちろん、記者の

お客様のお客様の赤ん坊が吐き出したモノを笑顔できれいにふき取ったそなた。エライノ/また、言葉づかいも良くなる。

学校側の言い分による、アルバイトをすると金銭の使い方があらくなる、などのマイナス点よりもこのようなプラスの面の方が大きいのではない

してしまふようないい加減な人もかなりいて、それが心配なのはわかるが、大泉というと学力の面以外では、イマイチぱっとしない感じに思われる。ここで一発アルバイトを許可して社会性のある人間を育て、大泉の改革を計ってみてはどうかな。

去る九月三十一、二十二日の文化祭で、我がクラスはおばけ屋敷をやった。かなり好評であって、入場客は合計で五百人にも達した。たった二日間で、しかも

では恐くなったようだ。泣き出す人が続出したほどだ。（おばけとしてはこれが楽しく思えてならないのだが）中にはおもしろい人がいて、本当におもしろいからなのか、恐怖のあまりひききつていたのか、ケラケラ笑いながら歩き過ぎる人や、先生に言い

これは記者自身も経験したが、こんなものは二度と味わいたくないものだ。▼一口に「死」と言っても様々である。老衰・自殺、交通事故、災害によるものと挙げよう。思えば幾らでも挙げられる。ここでは自殺について考えてみよう。最近世間で言われているいじめに

れは自分にもやってくるものがあるいはまだまだ先のことだから当分の間は関係ないなどだろう。またそれが自分以外のものであったら、悲しみや悲劇、悲惨なものとして浮かんでくるだろう。しかし実際にはイメージしている以上にいやなものである。特に葬式な

説論
文化祭を再興せよ

長い列をなして並んで待つていなければいけない。たまたランチャイムに遅れていくと、もう欲しいものは売り切れ、というヒサンな結末。また、食べ物自体も、火器の使用が禁止されているせいか、手製しまっようだ。

つけていれば、そのくらいは大丈夫である。

ところで、今年と去年の文化祭との大きな違いは去年のは今年のより一日長く、初日には練馬文化センターで演奏祭を行ったことだ。その分（記

育館の半分ほどしかうまっていなかった。(演音局でも)のこを後に反省していたが、日数のことは生徒だけでは決められないことだそうだ。話をもとに戻し、最初の一年生の感想を続けると、「自

2名	合計	4 4 8 4
2名	女子172名	合計402
0	28	30
2	9	9
2	3	5
2	36	88
2	34	126
3	122	185

2	94	116
7	11	38
6	8	54
6	9	25
4	2	76
6	3	19
7	24	34
5	21	36
3	13	16
0	6	6
9	15	24

確かに我が校の文化祭は私立校のなどに比べると、来客の楽しみという点では大きく劣るだろう。その理由として模擬店が全クラスで二つしかないということが大きな比重を占めているように思われる。この数が少ないと、昼間のラッシュアワーに入る時には

べる楽しみはおろか、皆と協力して作るという楽しみも半減するのではないだろうか。

逆に、他のクラスの催し物では、ひまな所が多く、盛上がりに欠けていた。他校からの客が私立校の文化祭に比べて極端に少ないのだ。大泉の文化祭といっても、あまり許可と模擬店の数の増加を認めたらどうだ。模擬店とはいかなくても、屋外やちよっとした広場でやき鳥屋のような店はいくらでも出せる。また、火器を使うと危ないというが、他校では使用しているところは多く、また我々も高校生である、皆が気を

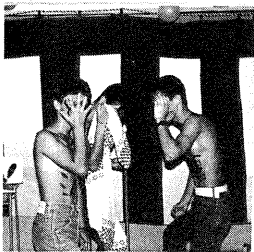
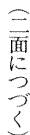
いかせめて去年のように
演奏祭の日だけ一日別にとつ
ておく方が良いのではないか
演奏祭での皆のすばらしい登
表を見ようにも、自分のクラ
スの係をやらねばいけず、じ
つくり落ち着いて見ることが
できなかったという人が多か
ったようだ。実際、観客は体

だ。後半に至るまで盛り上がり、これは大泉の悪い癖らしい。ならば、来年はそれを直して一時に燃焼しきるような気持ちで、頑張っていきたい。そこにこの文化祭をやる意義がみえてくるのではないかと

60年度 第三		
1	調査人数	男子
2	第一志望 の 進路	a. 4
		b. 短
		c. 専
		d. 専
3	2のa, b のうち 設置別の	e. 国
		f. 国
		c. 私

4	2のa, b cに関して 分野別の 第一志望	a. 文
		b. 法
		c. 経
		d. 理
		e. 工
		f. 農
		g. 医
		h. 教
		i. 芸
		j. 家
k. そ		

1	調査人数	男子 2 3 6 名	女子 2 1 2 名	合計 4 4 8 名	
2	第一志望 の 進路	a. 4 年制大学	男子232名	女子172名	合計404名
		b. 短期大学	2	28	30
		c. 専修・各種	0	9	9
		d. 職業	2	3	5
3	2のa, b のうち 設置別の 第一志望	e. 国公立文系	52	36	88
		f. 国公立理系	92	34	126
		g. 私立文系	63	122	185
		d. 私立理系	26	12	38
4	2のa, b cに関して 分野別の 第一志望	a. 文学・語学	22	94	116
		b. 法律・政治	27	11	38
		c. 経済(営)・商	46	8	54
		d. 理 学	16	9	25
		e. 工 学	74	2	76
		f. 農・林・水産	16	3	19
		g. 医・薬・看護	7	24	34
		h. 教員養成	15	21	36
		i. 芸術	3	13	16
		j. 家政	0	6	6
		k. その他	9	15	24



○ 今年で終戦から40年たったことになるが、戦争を知らない我々
○ には戦争が無縁であるように思われる。しかし、戦争は今日でも
○ いたる所でおこなわれ、多数の犠牲者が出されている。兵器も莫大
○ な金額をかけられて改良され、より破壊的になる一方だ。
○ ごく最近になって、やつと核軍縮の問題が真剣に取扱われて
○ きている。しかし、それまでに何万人の被害者が核兵器だけにお
○ いてでも出されてきたのか。彼らの死を無駄にしてはいけない。
○ 安らかに眠れ、誤ちは二度とくりかえしませんから。

暑くも寒くもなく、なかなか快適な二日間だった。

二日目はいくつかのコースに別れ、各所で被爆者の講演

(大江健三郎著『若波新書』)の中には(決して絶望せず、しかも過度の希望を持たず、いかなる状況においても屈伏し

人がたくさんいると分かった点は、まあうれしいことだ。

三日間なりに充実していたH R 会宿であった。

接に被爆者に会い話せたことが、この旅において一番大きな収穫だったようだ。「国民学校の碑」（平和公園内にある）コースの講師は、岡原清子さんだったのだが、記者としては岡原さんの話よりもむしろ岡原さん自身にショックをうけた。原爆をつけた悲しみ（彼女は原爆で子供を失った）や苦しみに押しつぶされることとはいいのかと疑問を持ちたくなるほどの温かい態度で聞く者に「愛はいちばん大切、愛を持ちなさいよ」と語られた。「ヒロシマノート」

いる人々）＝（広島的人間）という一文がある。岡原さんも、きっとこの広島の人々の一人であるにちがいない。

二日目（十一日）の夜、クラス討議が行われた。各人それぞれ何かを受けとめたのは当然で、冷めた討議になったクラスは一つもなかったようだ。あるクラスの場合、初めは体験したことの報告、感想は体験したこと、報告、感想は体験したのが、だんだんと「戦争とは」、など、哲学的な論争に走ってゆき、結論を出すどころではなかった。

討議中、いろいろな意見が

なかつた。しかし活発な討論が行われ、真剣に考えている人がたくさんいると分かった。点は、まあうれしことだ。

三日間なりに充実していた。日R合宿であつた。

父・大月信雄

父の三人の兄は、それぞれ工場へ出かけていた。身体の悪い祖父は、兵隊にとられることなくずっと家にくすっと家にいる。子供達には外で遊ぶ、裏の家の子は七五三で陸軍服を着せても

いる。腰には刀まで提「うらやましかった」はそう語る。

東京・青山警察署横に集められた焼死体
（「死者が語る戦争」より）

の死体を、大きな穴の中へ入れて埋める。その日、家へ帰った祖父は大声で泣きじやくる。

次の日、春雨の降る中を幼い父は疎開をした。

出たが、結局は今何をすべきなのか、ということになる。無力に等しい我々にできることは、自分自身を育てること以外ないと思うのだが、H・R合宿の数日後行われた全体討議においてもその結論は出

近くで空襲のあった翌日には、子供達はふしぎな銀紙を拾う。銀紙は至るところに落ちてゐる。誰が一番大きなかけらを拾うのか、誰が一番沢山拾うのかみんなで競う。銀紙を拾い集めて遊ぶ子供達に大人達の目は冷たくはなかったのか？ その銀紙は夕辺、爆撃機が電波妨害のためにおとしていたものなのだ。

若い青年たちは、どんどん兵隊にとられる。町の人たちは彼らのために歓送式を催す。駅の近くの神社で……ある者は

ほんとうに勇しく、ある者は半分泣きながら見送られる。神社から駅へ、そして電車に乗って去ってゆく。町の人達が見送り、子供達も見送る。「あいつ泣いてやがんの。」「だらしねえな。」子供達はそんなことを言いあっている。

「子供だったな。」と、父はうつむいていう。けれど子供達には邪気などはなかった。

父の家は東京とはいへ郊外（今の練馬区江古田）のために酷い被害はなかったものの、三月の空襲（俗にいう東京大

空襲)の勉強には、父たちも家を出て駅の向こうの畑へ逃げた。

真つ暗闇の中の、畑の中で父と父の両親と多くの人が寄り集つて、空を仰ぐ。浅草の方の空が赤い。爆音、爆裂は夜が明ける頃まで、皆の心の底まで響いている。

その翌日、祖父は都から呼びだされる。「スコップを持ってくるように」。祖父はいわれるまま目的地、浅草へ向かう。祖父はそこで、死体処理をやらされたのだ。空襲で殺

日本では一九四五年まで国民男子には、兵役の義務があった。当時は、徴兵検査甲種合格者が二年間兵役に服すだけだったが、「大東亜戦争」宣戦（一九四一年十二月八日）以後、人員不足により乙種・丙種合格者も徴兵されることになった。さらに戦争末期には、三十年代四十代の一般市民まで動員されたのだ。著者大岡昇平もこのようにして動員された老兵の一人であった。

主人公「私」はルソン島に送られたが、肺病にかかり、軍隊からも病院からも見放されてしまふ。その時より孤独と絶望の彷徨生活が始まる。

「この道は私が始めて通る道

であるにも拘らず、私は二度とこの道を通らないであらう。という奇怪な観念が「私」を襲つた。ある日比島人の芋畠を発見する。暫くそこに留まることが遠く海岸の方角に十字架を見そこへ向かう。途中、出会つた比島人の女を射殺する。「私は銃を捨て、また孤独な彷徨が始まる。俺が死んだら、肉を食つてもいい」と言い残して死んだ将校がいた。その時剣を持った右手を左手が押えた。死人の肉を食べなかつた。とうとう「私」は動けなくなつたが、運よく、戦友の安田と永松に助けられた。彼らは人間（本人は猿の肉だと言っているが）の肉を食べていたの

だ。そして、「私」も食べたのだ。人肉だけは食わぬという決意は好意という手続きにより、もうくも崩れ去った。数日後、食糧は底をつき、永松は安田を殺し、「私は人肉常食者永松を殺した。ここで、「私の記憶はとされる。一人の復員兵が手記を書いているという形で終わっている。

日本人が戦争を起こしたことを単に馬鹿だと思っていたが、記者は、戦争を起こさないために何をしているか、また、そのためには何をすべきか考えさせられた。

A black and white photograph showing a group of people in a rural setting. In the foreground, a man is lying on the ground, possibly dead or unconscious. Several other people are standing around him, some looking down at him. The background shows trees and a fence.



銃剣で刺殺される中国人（「死者が語る戦争」より）

その言葉に 潜む真の重 さがわかつ た気がして、 被爆された 人の中学生 当時の日記 の内容を聴 いて自分の 友人が去っ てしまった ような悲し みを感じた のだ。そし て、人間で ある以上、 屈だけを通し	では思想が統一され、天皇 に忠誠を尽くす”ことに疑問 を感じた人も少数であったこ とも、つくづく国家体制の恐 しさを感ぜさせる。先にあげ た言葉は、暗にそいつった統 制を批判している。だから、 この先、国家機密法、防衛構 想や方針計画等が秘密にされ 報道・言論・表現等も統制さ れ（それに反した刑として、 ”死刑”さである。民主主義 の破壊へとつながる法案。）な どが絶対に認められてはなら ないのだ。 以上をふまえた上で”行動” が存在するべきだろう。戦争
---	---

切である。何度も述べてきたように、様々な人がいて、色々な感じ方、考え方があるのだ。だからこそ、人々との意見の交換は大きな意味を持つのである。こんなことを言ったら相手は変に思うんじゃないかとか、そういう考えを一切捨てて、人とぶつかったも話し合ってみることは大切だろう。それによって、自分の考え方を固めたり、変えたり、ふくらませたりすることができるのであるから。人というのは完璧ではないのだから、そうすることによって何らかの形によってプラスになるだろう。

知・情・志

を以て

が近づくことができるだろう
か。記者は広島へ行って、初
めてそれに少し近づけた気が
したのである。「戦争で何が悲
惨かって、戦争にいく親類を
「万歳」で送ったり、名譽だなど
と言う心の退廃こそ悲惨な
ものはないと思います。」とい
う講演者のお話を聞いた時、

いた冷たい世界を成り立たせては
いけないと痛感したのである
第三に、「考える」ことにつ
いてであるが、まず最初に広
島で講演してくださった方のお
話の一部をピックアップして
いってしまうのは悪いことだと思
います。皆が色々な考え方を
のできる時代であって欲しい
と思います。」第二次大戦下

関係だけでなく、福祉関係の仕事をしたり、自分の子供に平和の尊さを伝えたりするのでも、その「行動」の一つだろう。大切なのは、人間として自分を見失わず、平和の尊さを忘れずに生きていくことだと記者は思うのである。

ここで付加として記しておきたいことがある。それは、他人と意見を交わすことの大切

そして、人と人とがそうやって心を交িয়েいていくことは、いつしか大きな力にもなるだろう。……ということ、そんなことが大きな力となつて世界中を動かしたりすることはしないのだという人がいるかもしれないが、無からは何も生まれないが、一が次々と加われば何かしら変化を生むということも頭に入れておいて欲しい。

な角度から得てほしいということだ。日本は唯一の被害国ではあるのだが、唯一の被害国ではなく、加害国（「南京大虐殺」では広島・長崎の原爆で亡くなった人々の数に匹敵する人々を殺している）でもあるということもその例の一つだ。そして、政治についてももっと関心を持つべきであろう。二十歳になれば選挙権を持つわけだ。戦争を大きく左右する政治の源は選挙にある日本の未来を考えるならこれに關しても慎重に考えるべきなのだ。（現在の投票率は五十％程度である。）以上のほか放射能などの化学的な方面からの知識を得ることも大切だし、とにかく視野を広げることが重要なのだ。

「大泉高校新聞」で、毎号のように繰り返し載せられていることに、「生徒の意識」についての記事がある。

内容はどれも似通っていて「生徒総会の時の態度を改めよう」というのが一つのパターンとなつてしまっている。

が、そうするのは新聞小委員の責任ではなく、生徒全員の責任のほうではないか。

何度も言われているが、全体集合が遅い、質問が出ない私語が多い、注意を聞かない等ということは、つまり関心がない、理解がない、自覚がない、ということであるのだけれど、これらのことは、中学生がよく言われることで、ある程度の知性をもった我々大泉高生としては、このように言われることは恥なのではないか。

ここで、何故このような状態になるのかということを考えてみると、今の生徒が自己中心的であり、自分の甘えに對しての許容範囲が非常に広いということがある。また生徒個人個人がいくつかの集団にまぎれまぎれと、団結することによって大胆にも悪い方向へと進んでいく勇氣がわくのではないかということもある。（ややこしい言い回しだが）これは、意識的、無意識的を問わない。

少しまとめてみると、個人主義の人間が多く、一人では何もできないくせ、それらの人々が一つの集団となった時集団全体で安易な方向へと流れようとするのを互いに特に注意することもなく、目をつぶり合っているということだ。話は変わるが、最近生徒委

生徒委員会で承認をとるための人数が足りないからといって、委員会をさぼっていた生徒委員が担任の先生にかり出されるほどだ。生徒委員会の問題は、出席状況のことだけではならぬらしい。毎週月曜日の定例会でも殆ど意見、質問が出ず、ただ予算関係やらの承認のため、意味もわからず手をあげているような委員が大部分を占めているようだ。

議題がない、各クラスの問題について討議する場であるはずなのに、その意見さえ出ない。このままでは生徒委員がクラスから離れてしまい、執行と生徒の橋渡しの存在でなくなってしまうようなそんな中、「議長と生徒委員とをくっつけてしまおう。」というような発見が、役員の方から出てきたらしい。ここまで

もちろん、議長と生徒委員とを合わせることによって、クラスと委員会とのかかわりが濃くなるのはわかる。しかし、それでは議長の仕事が増えず、彼らにとって仕事が増える荷となるのは明らかだ。

今年の卒業生が委員会を中心となっていた時は、生徒総会、生徒委員会などはかなり活発だったようだ。その前は今の状態と似たようなものだったらしいので、「波」があることはわかる。が、だからといって、今が盛り上がる時期ではないからとでもいう風にそれに甘えてはいけない。大泉をひっぱるのは大泉生なのだ。

生徒の「自由自治」のない高校は多い。我々はそれを得て幸いなのだ。「自由自治」をおろそかにしてはいけない。

ネバデルルイス山大爆発

今年、日航機墜落事件、メキシコ大地震、エジプト機人質救出の失敗、などさまざまな事件、特に惨事の多い年となった。その85年の終わりに今年最大の惨事となったコロンビアのネバデル

安心するな！

11月13日、南米のコロンビアのネバデルルイス山が140年ぶりに噴火し、首都ボゴタやアルメロ、イバゲなどの町を泥流で飲み込んでしまい、就寝中の人々を生き埋めにしました。噴火により、山頂の万年雪（ネバデルルイス山は雪におおわれたルイス山、の意）がとけて土砂崩れ、熱した泥流をおこしたのだが、その時速さは最高300キロにも達したらしい。一番被害の大きかったアルメロの町は全滅し、その周辺部を合わせた5万人の人口のうち、3万人の死者、行方不明者が出た。しかし、この災害は、本当に避けることのできない「天災」だったのか。実は、今回の噴火は数週間前に驚くほどの正確さ

ルイス山爆発があった。死者2万5千人を出したこの天災は避けられなかったのだろうか。70もの火山のある、同じ火山国日本としては、これは決して「対岸の火災」と見すごすことはできないだろう。

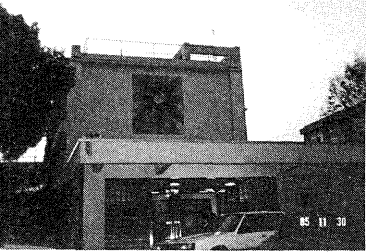


で予測されており、政府は一応の警告は発していたのだ。それもそのはず、140年も火山活動を休止していたネバデルルイス山が噴煙を吹き上げたり、小地震を起こすなどの兆候をみせ始めたのは一年も前で、今度の噴火を近代の予測技術で予測できなかったはずはないのだ。火山学の権威によれば、「的確な予測措置と被災地住民に対する広報体制が確立していれば、火山爆発後30分で安全な場所への避難可能。今回の爆発による悲劇は回避できたと思う。」これは正に「人災」であった。それでは、3万もの命は何のために失われたのか。一方、コロンビア政府は緊急体制をとり、被害者の救出に全面を向けた。が、人員不足、水不足、薬品不足、食糧不足、と救出ははかどらず、救出した人々のその後の処置も不十分なままにされ、結局救出された後死んだ人が多かった。時間だけが経過し、30℃以上の暑さが続いた結果、泥の中の何千もの遺体は数日後から腐り始めた。そのため疫病発生のおそれがあるとして政府は「18日からの救出活動を中止する」と発表した。しかし、これはマスコミなどの猛烈反対に遭い、一時間後にこの方針を撤回、一人でも救出可能者がいる限りは救出活動を続けることにした。そのおかげで20名近くの命が助かることになったのだが、結局は一週間後の20日に、厚さ5メートルの泥の中から遺体を収容するのは不可能とし、またアルメロの町の復活は無理だとし、被災地一帯を消毒したうえで、町全体を巨大な霊園にすることに決めた。しかし、一人でも生存者を救出することはどんなに努力をこらして、皆の必死努力も報われたことは、誰にとっても感謝すべきことだろう。ところで、各国からコロン

ビアへ援助が送られているが、日本政府も17日に医療チームを派遣、治療活動を開始した。また、日赤医療班の一行も18日到着して医療活動を開始している。しかし、重要救護拠点となっているイバゲでは、手足の切断者が約50人にのぼり、約200人が社会復帰のためにリハビリが必要とされ、新たな問題をかかえている。また、手足を切断された人々は、消毒が充分に出来ないため、壊疽や伝染病になる恐れも出ている。一方、我が国の援助金については、ボゴタの日本人大使の約1億5千万円、創価学会の約1千万円、衆議院議員の百万六千円、その他が送られた。そこで我々も援助しようではないか。最後に救助活動の様子を記すが、これを読んで読者は命の尊さを、他人ごとではない悲劇について、少しの間考えてほしい。

アルメロで泥流の中に約60時間閉じ込められた少女がいた。名前は、オマリ・サン・チェスちゃん、中学一年12歳。このような惨事のあったアルメロでも、一瞬ホッとする出来事もあった。オマリちゃんが出た場所からわずか500メートルの所で、二昼夜

他校訪問 都立石神井高校



今回の他校訪問では、大泉、井草と並ぶ御三家(?)の都立石神井高校を訪問した。石神井高校は西武新線・武蔵関駅から徒歩5分のところにある。北側は新青梅街道に面しており、多少騒音が気になったが、校内ではそれほど騒音がなかった。敷地内に入るとまず感じたことは、緑が多いということ。我が校に勝ると劣らない数の樹木がうっそうと生い茂っ

ており、記者は心なごむ思いがした。正門の前に校舎が建ち並び、その間をぬけていくと、広々としたグラウンドに出る。運動の石神井といわれるだけあり、運動部の活動は盛んで、練習量はやはり相当なもの。中でもサッカー部・アメフト部は都内で上位である。また、文化部(?)にはなわとび同好会、というものもあるそうで、活動状況は不明とか。生徒たちの状況は新聞部の

半にわたる泥水の中に閉じ込められていた女性が救出された。その直後に女児を出産したという。出産した女性はカルメン・セシリア・モレノさん(25歳)。救助隊がようやく救出に成功した直後、妊娠八ヶ月だったカルメンさんは息



よゝ頑張った！

「いじめ」問題と出入口。いじめ、最近この言葉をよく耳にすることだろう。事実、この頃小・中学校でのいじめがいろいろな報道機関で取り上げられ、世間から注目を浴び始めている。しかし、「いじめ」などは昔からあったことなのに、どうして最近になって問題にされるのか。疑問に思う人も少なくないだろう。その答えとして、「いじめられっ子」の相繼ぐ自殺があげられる。実際、「いじめ」を理由に自殺を計った子供は今年だけでも十人近く、羽田中などからは、そのうちの二人も出る始末となった。また自殺とまではいなくても、東京都立梅ヶ丘病院など「子供専門の精神病院」ではいじめ被害が原因の患者が急増しているそうなのだ。(毎日新聞八五年十二月十二日)

「いじめ」が昔からあったとはいえ、昔の「いじめ」と最近のそれは果たして同質のものなのだろうか。昔の「いじめ」には多少、優しさがあった。ガキ大将が仲間をボコるとやる、などがそれだ。しかし、最近の「いじめ」は違う。「いじめ」は、

「いじめ」、問題と出入口

子供達の楽しみとなり、特徴としては、「バイキン扱いされる」、「スカートに頭の上で縛られる」、「トイレに呼び出されて殴られ、蹴られる」などのいやがらせ的なものや暴力的なものであり、ほとんどが一人に集中的に、長期にわたるものであるのだ。どうして「いじめ」がこのようなものにまで及ぶようになったのか。原因は一言では言えず、多くの要因が複雑にからみ合っているようである。もちろん、表面的には、どの陰湿な「いじめ」も「いじめっ子」が悪いのであろう。だが、そこまですべてひいて「いじめ」をしてしまう根底には何があるのか。まず、「いじめっ子」側の言い分をあげると、「アイツの性格が悪い」、「アイツは成績が良くて目立つから」といじめられっ子側に起因するものが多いらしい。方では「殴りつける」とスカッとすると「やいじめると心臓がどきどきして興奮する、いじめのスリル」と快感がたまらなくなった「な」といいうのもあり、「いじめられっ子」は彼らのうっぶん暗

「いじめ」は、最近の「いじめ」は、

【クラス順位】

順位	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1年(組)	4	7	9	8.5			6	3	1	10
2年	5.9		8	2	1	3	6	4	7	10
3年	3.9		6.8		2	1	4.5			10

また、学校側の見方では、「いじめ」を子供同士の問題と割り切ることがまだ多くあるという。もちろん、学校側としては、そのような見解をとり、見て見ぬふりをすることが出来た。だが、それは単に無責任としか言えないはずである。なぜならば、学校は「教育」の場であり、生徒に「いじめ」が「いじめられっ子」の人権侵害にあたると教育しなければいけないのだから。ところで、学校というところは、子供達にとってかなりのストレスを生じさせる場である。その根拠となるいくつかの事項をあげてみよう。第一に、少しき道にそれるが、ある大学生対象の調査で、「いじめ」と深いかわりのある集団の反抗をしたと答えた人、五九四のうちの、いつ反抗したかという質問に対して、小学校時代「五七」、中学校時代「四四・八」、高校時代「三九・五」という結果が得られた。このデータから、小学校からの九年間のうち、中学校で反抗することが最も多く、それより、反抗行動を起こさせるといえる。また、警察庁では来年度からいじめ問題の専門官を置く決定をするなど、「いじめ」をなくす積極的な姿勢が見受けられる。しかし、形だけの改革ではなく、再度言うが教師の「いじめ」は子供の人権侵害である」という認識に基づく教育で「心」の改革がなされなければ、「いじめ」の根

「いじめ」は、最近の「いじめ」は、

も重要な事柄であり、早く到来しすぎるのではないだろうか。まだ幼い生徒達に世界にまだ例のないプレッシャーが肩にかかるわけである。第二に、中学校では生徒を学力別にわけ、成績でかなりの格差のある生徒達が一つのクラスにおさまられるということがある。だから、成績の悪い生徒は、屈辱感、劣等感をほとんど毎日のように受けなければいけないことだろう。よって、「アイツは成績がいいから」ということが起こりかねない。このこと(事実、似かよった成績を持つ者同志の集まる高校では「いじめ」は著しく減少する。)第三に、子供は管理教育の中で没個性的な教育を受けるということがあげられる。人間は誰でも個性というものを持っているのに、学校では皆と同じものを押しつけられ、生徒の思考、行動、服飾などの均一化、同質化を押し進められる。ここでストレスを感じるのと同時に、異質者「目立つ者」を排除しようという「いじめ」が起こってしまうのである。以上のように、学校教育の中の構造的な歪みとして、「いじめ」が生じる。つまり環境が本当は無邪気な子供達をこのような行動に追い込むといえる。さて、そのような教育の見直しとして教育改革がなされつつある。何かを改善しなければ「いじめ」などが減少しないだろうという認識の広がり故といえる。また、警察庁では来年度からいじめ問題の専門官を置く決定をするなど、「いじめ」をなくす積極的な姿勢が見受けられる。しかし、形だけの改革ではなく、再度言うが教師の「いじめ」は子供の人権侵害である」という認識に基づく教育で「心」の改革がなされなければ、「いじめ」の根

今年最高のヒット作
「バック・トゥ・ザ・フューチャー」

時速140キロまで出したら、セツトしてある時間の過去や未来のどこにでも行ける、というのだ。すると、その時りピアの過激派に襲われる。博士が彼らをだましてブルトニウムを盗み出させたため、復讐に来たのだ。博士は過激派の銃弾を浴びせられ、今度はマーティまで襲われた。マーティが必死で逃げ込んだのが、デロリアンの中。しつこく追いつく過激派の車を引き離そうとして、スピードをぐんぐん上げたところ、時速140キロをきったところでタイムスリッップしてしまった。着いたの

という風に、この作品はアイデアが突飛で、脚本もとて

も良くできている。ギャグもたっぷりあり、主演のマイケル・J・フォックスのユーモアのセンスがそれらはひき立てている。オーディションで演奏するマーティに、「だめだ音がでかすぎる」と言つて落選させるのがなんとヒューリス・ス・本人と来ていて、この作品はとにかく、とにかくおもしろおかしく、記者もこの記事を書く間、ゲラゲラと思い出し笑いをしたほどだ。この冬、必ず見なきゃ損な映画だ。

十六日に井草高校
 で井草祭が行われ
 た。大泉の文化祭
 と比較してみると、
 井草ではお化けに
 関するものが多く、
 「二月物語」、「G
 HOST-TOW
 N」など計四つの
 ものがあった。ま
 た、あまり見かけ
 ないものだが、「日
 昔話館」という
 記者は中に入っ
 ては暗く、中か
 りえてきた。昔
 また、映画に関しては、井
 草はさすがに特撮技術研究会
 があるだけに、大泉よりも特
 撮技術は優れていた。例えば
 井草の映画で変身するシーン
 があったが、フィルムを継い
 だのがわからないくらい上手
 にできていた。
 中庭では、大泉と同様、井
 草でも催し物があり、大泉の
 「第一回女装大会」では男に
 しておくには惜しいような美
 人ばかりが参加し、会場は白
 熱していた。特に「二目は飛
 び入りが出てきて、会場は大
 騒ぎになってしまった。一方
 井草では「ギネスに挑戦」と

いうものがあり、大泉の女装大会ほど大規模ではなかったが、工夫の仕方は大泉以上であつた。一人一人芸をやるところで、一人がスカートをはいて逆立ちしたので大爆笑。下はなんとブリーフの上にパンティーという艶姿(?)で、後からストッキングをはかされたりもした。他には「凶」がなく、大吉ばかりのおみくじやホースでジュースを飲む実験(普通は飲めない)などがあつた。

両校ともそれぞれ工夫された良い文化祭であり、今後とも期待したい。

先月、五十歳代から六十歳代までの老人の新名称を決めるため、厚生省は一般の人々から応募した名称から「実年」という名前に決定した。戦後、日本人の寿命が伸び、高齢化社会になるにつれこの年齢の人々が増え、また活躍することが多くなっているため、「老人」と呼ぶにはふさわしくないから、このような新名称を決めることにしたい。

応募総数は三十万九千四百二十四通にも達し、外国からの応募もあつたぞうだ。名称の種類はユニークなもの（下の図）を含め、二万五千種類以上と推定されるぞうだ。これを占め、さすがに高い関心をも示したようだ。

これらの応募名称の中から早に多数決で新しい名称を決めたのではなく、一応選考基準に従い、基準は左の通りである。

1. 字義がふさわしいもので五十歳代、六十歳代が各方面で活躍していることを表現しているもの
2. 使いやすさのもの
1. 字を書くのが容易
2. 字を読むのが容易
3. 語感の良いもの
4. 他の語と紛わしくないもの

3. 相当多数の方がふさわし

アクシスエイジ(axis age)

アクシスイジ(axis age)

天	晴	れ	族
あ	が	き	族
今	一	挑	年
意	欲	満	層
エイ	ジ	レス	年
永	年	精	層
エク	スパ	ート	エイ
旺	盛	色	代
開	花	年	
佳	境	年	
懸	け	橋	代
活	盛	年	
我	慢	年	
完	熟	年	
関	白	老	年
キャ	リア	・	マン
義務	の	活動	年
期	ホッ	パ	ス
(	出	生	一
)	就	職	(

クライマックス・エイジ
軒昂年者（けんこうねんしゃ）
紅葉世代（こはるびよりびと）
小春日和人（こはるびよりびと）
五合目年
再出発年
坂越え世代
雑草年
新旧調和年
人生の知恵盛り代
進路開元年
主役成年
筋金年（すじがねどし）
ステップアンドジャンプ年
創壮年
続壮年
大胆かつ細心年
だるま人生
——— ジャンプ
（～70歳）

中秋の美男女
 超 壯 年 層
 デラックス・イヤーズ
 ナチュラル・エイジ
 担 い 年
 分別盛り人生中軸層
 の ば の 厚 齡 者
 遇 進 年 (まいしんねん)
 幕 明 き 時 代
 未 だ 未 だ 年
 み の り 年
 迷 年 時 代
 悠 々 年
 瑠 璃 年 (るりねん)
 ルネッサンス・エイジ
 鍊 成 年 齡 層
 フーキング・ビー世代
 ワ サ ビ 族
 ワスレテナ歳年

荒井徹夫

その日は、小春日和の、静かな昼刻であった。都電の窓から見る空には、藍を背景として、まさに悠然と飛行する巨大な飛行機の群があつた。果てしなく続く四本の白い筋雲をひきつれて

との出会いの喜び、読書の喜びを知った。戦中の物質不足から、当時の書店には本が少なく、新刊本はある片寄りを内容としたものが多かった。私の欲求を満たす本は少なかつた。古書店で本を探すことに
り、横穴に身をかがめた。この不自然な、また不自由な日常性には、やがてやってくる栄光の時代の先ぶれにすぎないという、微塵の疑念もない強い信念を持っていた。定期便の過ぎ去るまで友と語ら

この時代に形成されたことを知る。読みたい本が手に入らぬ、売られていない、という状況からくる本への強い欲求は、いつしか本への飢餓意識となり心に定着した。現在の書店には、毎日のごとく新刊

で、結局最終決定の段階に
つた名称は、熟年、実年、
先年、幼年、栄年、活年、高
年、悠年、達年、泰年、壮年
あり、これらの全ては応募
数ベスト30の中で上位を占め
た。そして、五十歳代より

新名称の決定にあたって、漢字の成り立ちまでは全く調べなかったようで、これは完全な手落ちといえるだろう。

五十歳代の人のお自殺が世界で最も多い日本、彼らの生活は果たして「実り」のあるもの

かなんかがよかつた」そう。
(安藤先生)。
資料を提供して下さった厚
生省の方々、どうもありが
うございました。

れを証明するかのごとく、写真に写っていた自分の姿がど

乱れることなく藍の中を滑る。群の間を小さな光点の

荒井敏夫

がつて、購入スピードは、は

「熟年」の方がふ

~~~~~

5

みも十分に満たしてくれている。ストーリーは、まずヒル・バレーの、様々な時計や機械のあるブラウン博士の研究室で始まる。テレビが自動的につき、原子力研究所のブルトニウムが紛失、リビアの過激派が犯行を認めたというニュースが流れる。そこへ、ブラ

それを証明することく、写真に写っていた自分の姿がだんだんうすれていってしまつた。ラストのダンスパーティーでマーティが一曲ギターを披露する場面がある。チャック・ベリー<sup>(1)</sup>の曲をギンギンに弾きまくるのだが、この時代には真新しいギターテクニクに感動した一人がなんとチャック・ベリー<sup>(2)</sup>本人に「ほら、このサウンドを聞いてもら」と電話する。(この人はチャックのことという設定)

乱れることなく藍の中を滑る。群の間を小さな光点のいくつか縫うように飛び交う。かとおもうと一本の直線となつて落下していくかなしい美しさを見た。

これは、私が読書について考えるとき、常に脳裏に浮かぶ回想の一駒である。

時は、昭和二十年の初冬の或る日、神田神保町の古書店街からの帰路の途中の出来ことであつた。

戦中末期に中学生となつた私は、ようやく作家（本）

荒井 徹 夫

た。

今、この跡は桜井木となり、野球部の練習試合でバックネット脇のベンチに座るといつかの想い出にひたる。

危険と不確な将来への安心という日常性からくる慣れが、いつしか定期便不感症をつくった。定期便の子測される中をあえて出かけた。本への欲が強かった。吾が身を振りかえってみると、一つり習生が

がつて、購入スピードは、はるかに読書スピードを上まわる。小さな書庫にはたまる一方である。他人が見れば、笑止のいたりであろうが、私としては、いたしかたのない、哀しい習性への充足である。

全てに満たされ、満ちていることを当然とし、それを思考の起点としているのではとおもわれる今の若い君達の日常性をみた時、私は、そこに、大きな羨みの気持ちと同時にあるあわれさをも感ずる。

みると「熟年」の方がふさわしいと思われる。まず、実年」よりは語感が良いように感じられ、また「熟」の意味も、充分にできあがる、などがあり五十歳代、六十歳代の性質としてぴっくりくると思われ。逆に「実」の「実」という漢字の成立ちを漢和事典で調べてみると、家の中に財産が満ち足りている、という意味を示しており、ローンや子供の養育を抱えている親には少々皮

## 編集後記

れるのなら、必ずもとの場  
に返して下さい。また、大  
な資料が多いので、用いな  
ものはなるべく触れないで下  
さい。

★前期の新社の皆さん、本年  
にご苦勞様、今年度一回目の  
新聞を無事、今年中に発行  
されたのも君たちのおかげ。  
れぐれも、後期は違う委員  
会に入っただけで薄情なこと  
は言わないで下さいヨ。

〈鬼委員長より〉

# 編集後記

に返して下さい。また、大抵の資料が多いので、用のない

